

投稿●入れ墨は文化か奇習か

自分の身体は自分勝手にしてよいものではない

池垣幸一
栃木県足利市

なぜ入れ墨を入れるのか？

現代の日本人で入れ墨をしている人は稀ですが、日本を観光で訪れている外国人の中には、腕や足にタトウを入れている人を見かけることがあります。

そのタトウは、自分で隠して密かに楽しむのではなく、あえて人に見てもらいたいと言わんばかりだとも受け取ることができます。

今では珍しい入れ墨ですが、日本でも古代においては入れ墨を入れることが普通であったようです。『魏志倭人伝』によれば、「男子無大小、

皆黥面文身」と、当時の男性は、みんな入れ墨をしていましたと書かれています。

現代の我々からすれば、大きな驚きを禁じえませんが、当時は現代のような高度な医療もない時代であり、厳しい自然の中で生き抜き、自分の身を守る目的で呪術的な願いを込めて入れ墨を彫ったのでしょうか。また、入れ墨は、自分が所属する集団の一員であるという連帯感、誇りをも意味したものであつたであろうと推察することができます。

では、現代日本で入れ墨を入れた少数の人は、どのような理由で入れ墨を入れているのでしょうか。高度な医療技術の下で暮らしている現代

人は、自然から身を守るために呪術的な意味で入れ墨をする理由はないはずです。また、少数の人間しか入れない入れ墨では、互いに連帯感も無いはずなので、むしろ自分だけは周囲の人間とは違うという「特性」を誇示したいということでしょうか？

身体髪膚、之を父母に受く

入れ墨について調べると、様々なマイナス面が列挙されています。温泉の入浴制限、MRI検査時のリスク、肝臓への負担、就職や結婚などへの悪影響、生命保険への加入制限などが挙げられます。入れ墨を入れた人は、どれも個人的、社会的な両面で大きなマイナスを背負うことがあります。

また、道徳的な側面からも入れ墨について考察してみる必要があります。まず儒教では、「身体髪膚、之を父母に受く。敢て毀傷せざるは、孝の始也」と説かれています。自分の

投稿



身体は両親からもらった大切なものです。この体に傷を付けず、大切にすることは親孝行の第一歩という意味です。

身体は、自分独自の物でなく、勝手に傷をつけては親が悲しむと言っています。分かり易い説得力ある考察だといえます。

また仏教では、「無我」というこ

とを強調しています。無我とは、さまざまな解釈がありますが、ここでは自分の身体は自分の所有物ではないと考えられます。自分の身体は、大自然から賜ったものであり、自分で勝手に傷つけたりしてはいけません。さらに、死す時には大自然にそな。さらに、死す時には大自然にそのままお返しすべきものであるということです。これは実に深い納得を与えてくれる宗教的な考え方だといえます。

さらに我が日本神道では、物に人的なものを加えず、自然そのものを尊ぶ気風が根底にあります。自然そのままが尊いのであって、あえて人間が手を加えることは、そのものを損なうとする考えです。これも一理ある優れた思想であると思いま

す。
以上のように道徳的、宗教的な側面から考察しても、人間の身体に勝手に傷を付けることは、美的な観点だけでなく、より深い観点からも不合理であるといえるでしょう。
入れ墨を法的に完全に禁止している国は、世界にもありません。確か

に入れ墨を入れることは、本人の人生観や思想の自由です。しかし、自分の身体は自分の勝手にして良いものではなく、生きている間も大切にし、死す時は生まれた時まま、無傷なまで大自然にお返ししたいものだと思います。

これから長い人生を生きていかれる方は、親、そして大自然から賜った自分の身体を生涯大切にし、今後の人生を歩んでいかれることを願っています。

防腐剤の入らない
健康食品麺製造

(株)蜂屋 北海道旭川市3条15丁目左8号
でんわ0166(23)3729